

## 「なぜ？」と「何のため？」・・・という質問

「なぜ？」と「何のため？」、「何をするため？」、「どのようにして？」という問いは微妙に異なっており、その使い分けを承知しておくことが、仕事をする際随分と役立つものと考えるので紹介する。

先ず、このような質問に関する認識の差異を示すと次の通りである。

「なぜ？」の質問は、過去のこと、もしくはすでに把握している知識に遡るが、「なんのために？、どのようにして？」の質問は、未来志向を引き出し、未来の知恵を創り出す方向に働く。（「何をするため、どのようにして」のほうが的確かもしれない）

すなわち、前例のないことを考えようとするとき、「なぜ？」の質問から始めると、その思考のスタートが出来なく成りやすいということである。

したがって、正しい知識を把握しようとするときの質問の仕方は、次のように認識して行うのがよいであろう。

①未来のことについて正しい知恵を創り出す場合（正しい目的と手段の関係を把握したい時）は、「何をするため？どのようにして？」と質問する。

②過去のことについて正しい知識を把握する場合（正しい因果関係の知識を把握したい時）は、「どのようにしてそうなったか？」「どのようにしてそうなっているのか？」と質問する。

では、「なぜ？」はどのように使うとよいのだろうか。その答としては次のことを知った上で使うことを推奨したい。

①正しい目的と手段の関係や因果関係の知識を把握できたあとに使うと、わかりやすく説明することができる。

②今までの習慣のままに、最初に「なぜ？」から質問すると、うまくいけば正しい関係の知識にたどり着くことがあるが、意識的に自分に都合の良い関係の知識にもたどり着くことができる。

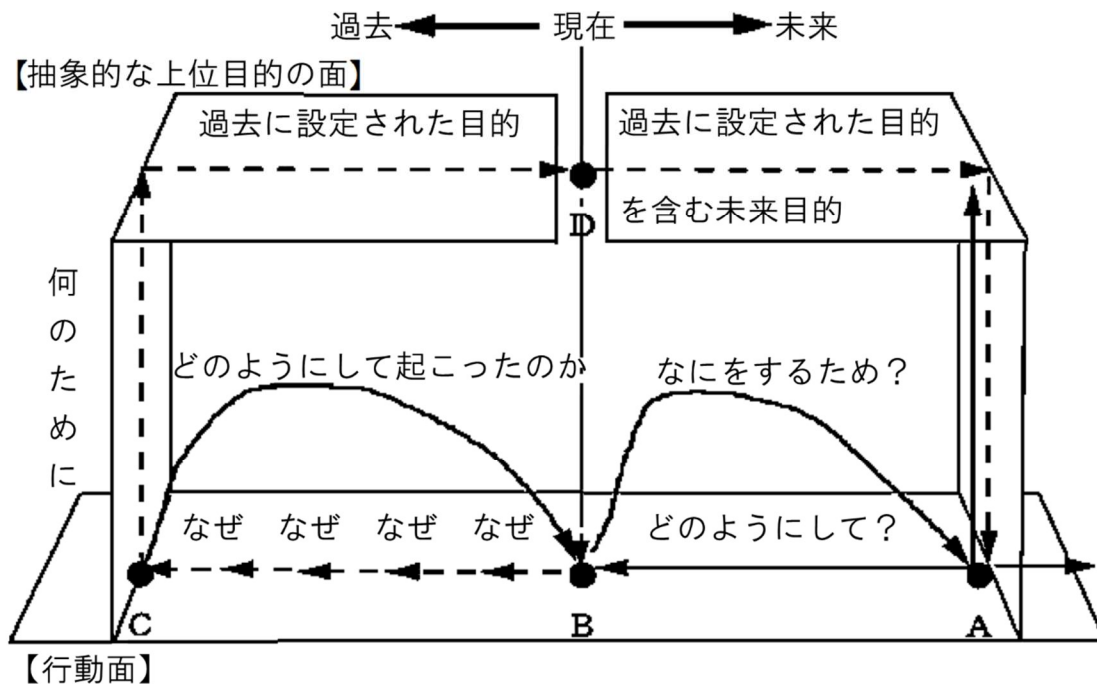
③すでに過去に起こってしまっている、変えることのできない事実をもとに、逃げ場のない方向で、人を追いつめることができる。したがって他人をいじめる目的のためには、大いに有効であるから、それを目的とする場合にはうってつけである。ただしあまり推奨はしない。

④だが、自分の現状を納得するためと考えれば多少いじめの構図はあっても便利ではある。

逆に「なぜ？」の質問を受けた場合の対処法に「ので」を使うことを推奨する。

国や自治体の組織には「なぜ？」の質問に答えなければならない会計法や予算令があり、それに対応するためには、正しい関係の知識が把握できたあと、「ので」という言葉を使って答えるようにすると良い。これにより、正しい施策の説明、適切な予算の取得が容易になり、事業の推進が期待できることが多々ある。これは「ので」の理論と呼ばれて一般的に用いられている。

ついでに、「なぜ？」と「なにをするため？どのようにして？」の微妙な使い分けのイメージを示しておこう。



#### 解説Ⅰ

- A点；「要するに・・・する」の点、「どのようにして」の言葉が始まる起点
- B点；「なぜ？」と「なんのため？」の言葉が始まる起点
- C点；「なんのため？」の言葉が上向きに始まる起点
- D点；現在の目的

『最初の「なにをするため？どのようにして？」の質問』は、質問の焦点を現在のB点から直接未来へ向かわせるのに対し、『最初の「なぜ？」の質問』は質問の焦点をB点から直接過去に向かわせる。

#### 解説Ⅱ

「何をするため？どのようにして？」と「なんのため？どのようにして？」という表現は、よく似ているが前者は「行動」を伴い、後者は「恋人のため」「死んでも良い」といったように少し短絡的思考をもたらす可能性がある。

#### 解説Ⅲ（一般論であり決して差別するものではない）

男性はどちらかというと現在から、未来、過去を見ており、女性はどちらかというと未来と過去から現在を見る傾向にあるという。そのため、男性の場合、最初に「なんのため？どのようにして？」と現在から未来を考え、「なぜそうなったのだろう？」と現在から過去を考えがちである。一方女性の場合は、最初に「もしそうなったらどうしよう？」また「どう思われるかしら？」と未来から現在を考え、「だって・・・」と過去から現在を考える傾向が強いと言われている。したがって新しいことへの挑戦は、どちらかというと、ここで言う男性的思考傾向を意識することがお勧めである。

(以上)